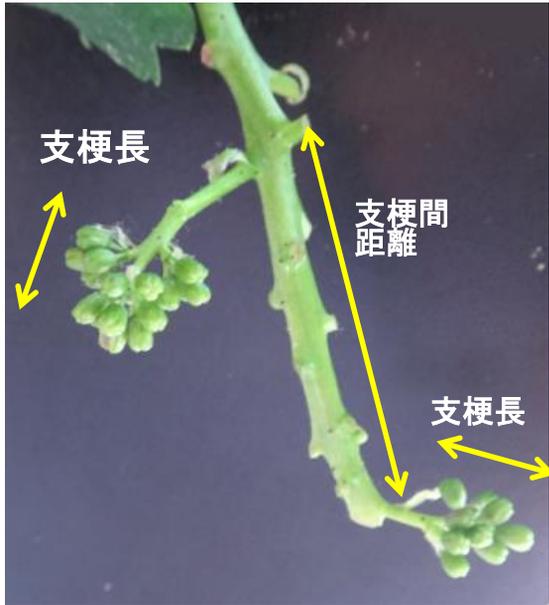


小房で食べきりサイズの 「オーロラブラック」の作り方



開花前の花穂整形状況



1花穂に2房成らせた小房ブドウ

開発のねらい

ブドウの個人消費のニーズに応じて、県産ブドウの新たな需要拡大を図るため、小房ブドウ栽培の基本技術となる房作り方法を「オーロラブラック」で開発しました。

新技術の概要

- 満開6～7日前に、1花穂の40mm以上離れた、支梗長15～20mm程度の2支梗を残します。
- 無核肥大処理は、満開期にフルメット10ppm加用ジベレリン25ppmの1回処理とし、結実後の摘粒は基本的に必要ありません。
- この房作り方法は、岡山県が特許を取得しています。
- 小房栽培の導入による農家所得や労働時間の変化を試算できるエクセルシートを開発しました。

活用場面

県下のブドウ産地全域に適応可能で、農家の所得の向上につながります。また、新たな商材として小房ブドウは関係者の期待も大きく、ブランド力強化に役立ちます。